

- 第10回日本再生医療学会総会(平成23年3月1日, 東京)
- 吾月 遥, 佐藤 光利, 田邊 思帆里, 山口 照英, 早川 堯夫, 鈴木 和博, 佐藤陽治 ヒト間葉系幹細胞(hMSC)の虚血条件下における VEGF 分泌能予測因子に関する検討 第10回日本再生医療学会総会(平成23年3月2日, 東京)
 - 佐藤 陽治 再生医療の国際動向からみたわが国の目指すべき道 バイオロジクスフォーラム第8回学術集会(平成23年2月2日, 東京)
 - 佐藤 陽治 再生医療・細胞治療製品の規制に関する国際動向 アカデミアにおける臨床研究・治験に関する薬事の基本と実例講習会(文部科学省 橋渡し研究支援推進プログラム)(平成23年2月1日, 大阪)
 - 齋木 翔太, 西岡 絹江, 有吉 麻里奈, 佐藤 陽治, 仲矢 道雄, 西田 基宏, 黒瀬 等 ホスホジエステラーゼ3阻害による PKA 依存的な TRPC6 チャンネルのリン酸化を介した血管収縮抑制効果 BMB2010(第33回日本分子生物学会年会/第83回日本生化学会大会合同大会, 平成22年12月7-10日, 神戸)
 - 北島 直幸, 渡邊 邦宏, 佐藤 陽治, 仲矢 道雄, 西田 基宏, 黒瀬 等
Suppression of myocardial dysfunction by phosphodiesterase 3 inhibition in MLP-deficient mice BMB2010(第33回日本分子生物学会年会/第83回日本生化学会大会合同大会, 平成22年12月7-10日, 神戸)
 - 吾月 遥, 佐藤 光利, 田邊 思帆里, 山口 照英, 早川 堯夫, 鈴木 和博, 佐藤陽治 虚血条件下におけるヒト間葉系幹細胞のサイトカイン分泌プロファイリング第31回日本臨床薬理学会年会(平成22年12月12月1-3日, 京都)
 - 佐藤 陽治 再生医療の実用化に向けた規制に関する国際比較 第47回全国衛生化学技術協議会年会(平成22年11月11-12日, 神戸)
 - 佐藤 陽治 再生医療・細胞治療製品の規制に関する国際動向 第12回未来医療交流会/第5回未来医療市民公開シンポジウム(平成22年6月23日, 大阪)
 - 豊田淑江, 石井明子, 鈴木琢雄, 多田稔, 小林 哲, 川崎ナナ, 山口照英: 血管内皮前駆細胞における MMP-2/MMP-9 の役割 第83回日本生化学会 第33回日本分子生物学会年会 2010年12月 神戸
 - 三ツ井洋輔, 山田佳太, 梶直孝, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 グライコミクスによる癌細胞の個性解析とグライコプロテオミクスへの展開第11回関西グライコサイエンスフォーラム, 平成22年5月15日, 大阪市立大学(大阪)
 - 仲西暁良, 佐藤葵, 木下充弘, 森山博由, 早川堯夫, 掛樋一晃 キャピラリー電気泳動を用いる糖鎖を指標とする細胞評価法 - 再生医療実用化に向けた基礎検討 - 第30回 キャピラリー電気泳動シンポジウム平成22年11月17日, 長良川国際会議場(岐阜)
 - 仲西暁良, 佐藤葵, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 糖鎖を指標とする細胞の個性解析, 第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会, 平成22年12月9日, 神戸ポートアイランド(兵庫)
 - 三ツ井洋輔, 山田佳太, 梶直孝, 田中佑樹, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 グライコプロテオミクスによるポリラクトサミン型糖鎖キャリアータンパク質の解析, 学会名: 第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会, 平成22年12月9日, 神戸ポートアイランド(兵庫)
 - 三ツ井洋輔, 山田佳太, 田中佑樹, 梶直孝, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 癌特異的糖タンパク質のグライコプロテオーム解析, 日本薬学会 第131年会, 平成23年3月, ツインメッセ静岡(静岡)
 - 三ツ井洋輔, 原沙弥香, 山田佳太, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 ヒト胃癌細胞中の高フコシル化糖タンパク質の探索, 日本薬学会 第131年会, 平成23年3月, ツインメッセ静岡(静岡)
 - 鈴木孝昌 Rodent Micronucleus Tests - Past, Present, and Future ?

- International Workshop on
Micronucleus Assays with Buccal
Cells for Human and Environmental
Monitoring (2011.2)
(Tiruchirappalli, India)
- Hashii, N., Huang, X., Kawasaki, N., Yamaguchi, T.: Differential glycan analysis during neural differentiation of human mesenchymal stem cells by quantitative glycan profiling using liquid chromatography/mass spectrometry. The 25th International Carbohydrate Symposium (ICS2010) 幕張 (2010. 8, 1-6)
 - Hashii, N., Huang, X., Kawasaki, N., Yamaguchi, T.: Quantitative glycan analysis during neural differentiation of human mesenchymal stem cells by liquid chromatography/mass spectrometry. The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies Honolulu (2010. 12. 15-20)
 - Satoh M, Yanagino S, Nishimaki-Mogami S, Suzuki K, Sato Y. Thyroid hormone up-regulates elastin and lysyl oxidase genes in rat aorta. WorldPharma2010 (16th IUPHAR WorldCongress of Basis and Clinical Pharmacology), Copenhagen, Denmark (2010年7月17-23日) Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2010;107(Suppl.1):563.
 - Tanabe S, Sato Y, Suzuki T, Yamaguchi T, Suzuki K. Gene expression profiling of human mesenchymal stem cells for identification of surrogate markers for in vitro culture stage. WorldPharma2010 (16th IUPHAR WorldCongress of Basis and Clinical Pharmacology), Copenhagen, Denmark (2010年7月17-23日) Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2010;107(Suppl.1):608.
 - Nishida M, Kitajima N, Nakaya M, Ide T, Sato Y, Kurose H. Inhibition of phosphodiesterase 5 prevents cardiac hypertrophy through phosphorylation of TRP6 at Thr69. 20th ISHR World Congress (2010年5月13-16日、京都)
 - Mishima T, Nishida M, Makaya M, Ide T, Sato Y, Kurose H. Galpha12/13 mediate pressure overload-induced cardiac fibrosis through production of reactive oxygen species. 20th ISHR World Congress (2010年5月13-16日、京都)
 - Y. Mitsui, Y. Tanaka, K. Yamada, S. Hara, M. Kinoshita, T. Hayakawa, K. Kakehi. Targeted glycoproteomics of polylactosamine-carrier proteins expressed on human histocytic lymphoma cells. The 25th International Carbohydrate Symposium、平成22年8月4日、幕張メッセ (千葉)
 - K. Yamada, K. Kamisue, S. Watanabe, M. Kinoshita, T. Hayakawa, K. Kakehi. A considerable amount of free glycans derived from glycoproteins are present in sera. The 25th International Carbohydrate Symposium、平成22年8月4日、幕張メッセ (千葉)
 - Nakanishi, M. Sato, M. Kinoshita, K. Kakehi, T. Hayakawa. Analysis of Characteristics of Cells using Glycans as Marker Molecules. The 25th International Carbohydrate Symposium、平成22年8月4日、幕張メッセ (千葉)
 - 眞田由親、新村卓也、井関寛、内田恵理子、山口照英、小木美恵子：HL60細胞におけるDimethyl Sulfoxideによる分化誘導とc-mycの変化について、第32回日本分子生物学会年会、2009年12月、横浜
 - 古田美玲、内田恵理子、押澤正、山口照英：造血支持能を持つフィーダー細胞膜タンパク質のプロテオーム解析による探索、日本薬学会第130年会、2010年3月、岡山
 - 鈴木孝昌, Suresh Thirupathi, 押澤正, Ramesh Doss, 田邊思帆里, 佐藤陽治, 鈴木和博 細胞・組織加工医薬品の品質評価および標準化に向けたプロテオーム解析技術の利用 日本ヒトプロテオーム機構第7回大会 (2009年7月)
 - 鈴木孝昌 個の医療の実現に向けて必

- 要となる診断技術 第46回全国衛生化学技術協議会年会(2009年11月)
- 鈴木孝昌, 小原有弘, ラマダン アリ, 菊池裕, 本間正充, 林 真 バルカン腎症の原因物質としてのアリストロキア酸およびオクラトキシンA 日本環境変異原学会第38回大会(2009年11月)
 - スレッシュ テイルパッティ, ラメッシュ ドス, 押澤 正, 宮澤明史, 鈴木和博, 鈴木孝昌 ショットガンプロテオミクスによる変異原研究・遺伝子傷害性物質処理したマウス尿を使った検討 日本環境変異原学会第38回大会(2009年11月)
 - 降旗千恵, 渡辺貴志, 末永和也, 高沢博修, 鈴木孝昌, 夏目匡克, 中嶋圓, 濱田修一, 多田隈英未, 小枝暁子, 成見香瑞範, 大信田系裕, 前田晃央, 平山満朝, 佐久間智宏, 真田尚和, 大山ワカ子, 岡田恵美子, 本田大士, 須藤鎮世 トキシコゲノミクスに関するJEMS/MMS共同研究(2009年): ラットとマウス肝臓におけるqPCR法による遺伝子発現比較解析 日本環境変異原学会第38回大会(2009年11月)
 - 鈴木孝昌, 小原有弘, 小木美恵子, 田邊思帆里, 本間正充 8番染色体特異的CGHアレイ解析による各種がん細胞株でのc-myc遺伝子領域増幅形式の解析 第68回日本癌学会学術総会(2009年10月)
 - 西川可穂子, 山下香織, 石井暁子, 伊藤友美, Thiruppathi Suresh, 鈴木孝昌, 藤原葉子 高脂肪食マウス肝臓におけるプロテオーム解析 -食餌性レスベラトロールの評価- 日本農芸化学会 2010年度大会(2010年3月)
 - 川崎ナナ: 糖タンパク質性医薬品の開発と質量分析. 第7回日本糖質科学コンソーシアムシンポジウム, 大阪(2009, 12, 7,8)
 - 稲村 充, 川端 健二, 櫻井 文教, 形山 和史, 林田 みどり, 松村 紘子, 古江一楠田美保, 水口裕之, 未分化ヒトES細胞から中内胚葉へのラミニンによる分化促進効果, 日本組織培養学会第82回大会, 栃木, 2009年5月18-19日(口頭・ポスター発表)
 - 稲村 充, 川端 健二, 形山 和史, 梅澤明弘, 阿久津英憲, 林田 みどり, 松村 紘子, 古江一楠田美保, 水口裕之, ヒトES細胞やiPS細胞からの内胚葉系細胞および肝細胞への分化誘導法の開発, 第16回肝細胞研究会, 山形, 2009年6月26-27日(ポスター発表)
 - 田代 克久, 稲村 充, 川端 健二, 櫻井 文教, 水口 裕之, アデノウイルスベクターによるマウスiPS細胞への高効率遺伝子導入法の確立と分化誘導への応用, 第25回日本DDS学会学術集会, 東京, 2009年7月3-4日(ポスター発表)
 - 川端 健二, 田代 克久, 水口 裕之, アデノウイルスベクターを用いたiPS細胞への遺伝子導入の最適化と分化誘導, 第82回日本生化学会大会, 神戸, 2009年10月21-24日(シンポジウム, 口頭発表)
 - 稲村 充, 川端 健二, 櫻井 文教, 形山 和史, 林田 みどり, 松村 紘子, 古江一楠田美保, 水口裕之, 未分化ヒトES細胞から中内胚葉へのラミニンによる分化促進効果, ファーマ・バイオフィオーラム2009第8回, 名古屋, 2009年11月14-15日ポスター発表)
 - Katsuhisa Tashiro, Mitsuru Inamura, Norihisa Furukawa, Kenji Kawabata, Fuminori Sakurai, Miho Kusuda Furue, Hiroyuki Mizuguchi, Adenovirus vector-mediated efficient transduction into human induced pluripotent stem cells, 第32回日本分子生物学会年会, 横浜, 2009年12月9-12日(ポスター発表)
 - 田代 克久, 稲村 充, 形山 和史, 櫻井 文教, 古江一楠田美保, 川端 健二, 水口 裕之, アデノウイルスベクターを用いた未分化ヒトES/iPS細胞への高効率遺伝子導入, 日本薬学会第130年会, 岡山, 2010年3月28-30日(ポスター発表)
 - 千蔵 さつき, 仲矢 道雄, 佐藤 陽治, 小柳 悟, 大戸 茂弘, 西田 基宏, 黒瀬 等 Metoprololの長期投与が心臓に及ぼす影響 日本薬学会 第130年会(平

- 成 22 年 3 月、岡山)
- 西田 基宏, 佐藤 陽治, 上村 綾, 仲矢道雄, 黒瀬 等 圧負荷による P2Y6 受容体-G12/13 蛋白質経路を介した心臓の線維化 第 82 回日本生化学会大会(平成 21 年 10 月 21-24 日、神戸) 生化学 2009; 81:366
 - 佐藤 陽治 血管の『しなやかさ』と甲状腺ホルモン 日本薬学会薬理系薬学部会 生体機能と創薬シンポジウム 2009 (平成 21 年 8 月 26-27 日、東京)
 - 鈴木 孝昌, Suresh Thirupathi, 押澤正, Ramesh Doss, 田邊 思帆里, 佐藤陽治, 鈴木 和博 細胞・組織加工医薬品の品質評価および標準化に向けたプロテオーム解析技術の利用 日本ヒトプロテオーム機構(JHUPO)第 7 回大会 (平成 21 年 7 月 27-28 日、東京)
 - 豊田淑江, 北川博子, 石井明子, 多田稔, 鈴木 琢雄, 小林 哲, 山口照英: 血管内皮前駆細胞の機能解析-Early EPC を中心に 第 9 回日本再生医療学会総会 2010 年 3 月 広島
 - 鈴木琢雄, 石井明子, 多田 稔, 小林哲, 豊田淑江, 川西 徹, 山口照英: 抗体医薬品と Fc ドメイン融合タンパク質医薬品における胎児性 Fc 受容体 (FcRn) 親和性の差異に関する検討 日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 岡山
 - 多田 稔, 伊藤さつき, 川崎ナナ, 石井 明子, 鈴木 琢雄, 小林 哲, 豊田 淑江, 山口照英: Notch リガンド糖タンパク質 Jagged1 の Allagille 症候群関連変異体の機能解析 第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 神戸
 - 鈴木琢雄, 石井明子, 多田 稔, 小林哲, 豊田淑江, 川西 徹, 山口照英: 抗体医薬品および Fc ドメイン融合タンパク質医薬品の Fc 受容体(FcRn および FcγRI)との結合特性比較 第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 神戸
 - 北川博子, 豊田淑江, 石井明子, 鈴木琢雄, 多田 稔, 小林 哲, 山口照英: 血管内皮細胞である Early EPC の機能解析 第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 神戸
 - 小林哲, 鈴木琢雄, 石井明子, 川崎ナナ, 山口照英: MALDI-TOF MS におけるマトリックスの塩基性アミノ酸残基に対する影響 質量分析討論会 2009 年 5 月 大阪
 - 田中佑樹, 三ツ井洋輔, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 ヒト組織球性リンパ腫細胞に発現する Poly lactosamine-Carrier Protein のグライコプロテオーム解析 第 129 回日本薬学会年会
 - 梶直孝, 木下充弘, 川崎ナナ, 早川堯夫, 掛樋一晃 ヘパリンナトリウム純度試験へのキャピラリー電気泳動法の適用について 第 129 回日本薬学会年会
 - 仲西暁良, 木下充弘, 浦島匡, 早川堯夫, 掛樋一晃 アジアゾウミルク中の高分子中性オリゴ糖の構造解析 第 129 回日本薬学会年会
 - 山本晃裕, 山田佳太, 木下充弘, 森嶋祥之, 早川堯夫, 掛樋一晃 ヒト血清糖タンパク質糖鎖の疾患マーカーとしての可能性 第 129 回日本薬学会年会
 - 能登啓介, 奥田茜, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 加齢マーカーとしての糖鎖の可能性 第 129 回日本薬学会年会
 - 山田佳太, 渡辺沙木絵, 木下充弘, 中家修一, 早川堯夫, 掛樋一晃 Tn 抗原の化学的分析法 第 129 回日本薬学会年会
 - 山田佳太, 木下充弘, 中家修一, 早川堯夫, 掛樋一晃 癌細胞上に発現するムチン型糖鎖の比較解析 第 129 回日本薬学会年会
 - 山田佳太, 渡辺沙木絵, 木下充弘, 中家修一, 早川堯夫, 掛樋一晃 培養癌細胞中の O 結合型糖鎖の網羅解析 第 29 回日本糖質学会年会
 - 山田佳太, 宇佐美克明, 早川堯夫, 掛樋一晃, 入村達郎 エボラウイルス表面糖タンパク質中の N-及び O-結合型糖鎖解析 第 29 回日本糖質学会年会
 - 能登啓介, 奥田茜, 木下充弘, 早川堯夫, 掛樋一晃 加齢に伴うラット血清糖タンパク質糖鎖の変化-加齢マーカーとしての糖鎖の可能性- 第 29 回日本糖質学会年会

- 田中佑樹、三ツ井洋輔、木下充弘、早川堯夫、掛樋一晃 ヒト組織球性リンパ腫細胞に発現する Poly lactosamine-Carrier Protein のグライコプロテオーム解析 第59回日本薬学会近畿支部大会
- 木下充弘、能登啓介、奥田茜、渡部沙木絵、早川堯夫、掛樋一晃 加齢により変動する血清糖タンパク質糖鎖の解析と加齢マーカーとしての可能性の検証 第59回日本薬学会近畿支部大会
- 田中佑樹、三ツ井洋輔、木下充弘、早川堯夫、掛樋一晃 キャピラリー電気泳動を用いたヒト組織球性リンパ腫細胞に発現する Poly lactosamine-Carrier Protein のグライコプロテオーム解析 第82回日本生化学会大会
- 梶直孝、山田佳太、田中佑樹、岩本竜昇、木下充弘、三善英知、森脇健太、早川堯夫、掛樋一晃 フコシル化を回復させた HCT116 細胞上に観察される糖タンパク質糖鎖 第82回日本生化学会大会
- 能登啓介、奥田茜、渡部沙木絵、木下充弘、早川堯夫、掛樋一晃 加齢に伴うラット血清糖タンパク質糖鎖の変化 第82回日本生化学会大会
- T. Suzuki, A. Kohara, A. Ramadan, Y. Kikuchi, M. Honma, M. Hayashi Comparative study on in vivo genotoxicity of ochratoxin A and aristolochic acid as a causative for the Balkan Endemic Nephropathy. 10th International Conference on Environmental Mutagens (2009年8月)
- C. Furihata, T. Watanabe, A. Tadakuma, M. Kido, Y. Ishikawa, M. Natsume, M. Nakajima, T. Suzuki, S. Hamada, A. Koeda, K. Narumi, K. Oshida, A. Maeda, M. Hirayama, T. Sakuma, H. Sanada, I. Hanahara, M. Sakurai, W. Ohyama, E. Okada, H. Honda, S. Sutou Differential gene expression and gene networks induced with genotoxic and non-genotoxic hepatocarcinogens in mouse liver examined by quantitative real-time PCR. 10th International Conference on Environmental Mutagens (2009年8月)
- H. Takasawa, H. Suzuki, I. Ogawa, Y. Shimada, K. Kobayashi, Y. Terashima, H. Matsumoto, R. Ohta, K. Oshida, J. Tanaka, C. Aruga, N. Ikeda, T. Suzuki, T. Hagiwara, S. Hatakeyama, K. Nagaoka, J. Yoshida, T. Imamura, A. Miyazaki, Y. Saitou, S. Minowa, M. Kawabata, M. Hayashi Summary of collaborative studies of liver micronucleus assay in young rats - JEMS/MMS Collaborative Study Group. 10th International Conference on Environmental Mutagens (2009年8月)
- T. Suzuki, Y. Luan, A. Kohara, M. Kogi, S. Tanabe, M. Honma, T. Yamaguchi, K. Suzuki Patterns of c-myc amplification revealed by the CGH array. Workshop: Genomics in Cancer Risk Assessment (2009年8月)
- C. Furihata, T. Watanabe, K. Suenaga, H. Takasawa, A. Tadakuma, M. Kido, Y. Ishikawa, M. Natsume, M. Nakajima, T. Suzuki, S. Hamada, A. Koeda, K. Narumi, K. Oshida, A. Maeda, M. Hirayama, T. Sakuma, H. Sanada, I. Hanahara, M. Sakurai, W. Ohyama, E. Okada, H. Honda, S. Sutou Comparative analysis of gene expression and network between genotoxic and non-genotoxic hepatocarcinogens in mouse and rat liver examined by quantitative real-time PCR. Workshop: Genomics in Cancer Risk Assessment (2009年8月)
- T. Suzuki Genomic and Proteomic Approach in Toxicology. International Conference on Environment, Occupational & Lifestyle Concerns (2009年9月)
- T. Suzuki Proteomics approach to find new biomarkers for toxicity. International Conference on Molecular Tools in Environmental Toxicology (2009年9月)
- Kenji Kawabata, Katsuhisa Tashiro, Mitsuru Inamura, Fuminori Sakurai,

- Hiroyuki Mizuguchi, Adenovirus vector-mediated differentiation into adipocytic and osteoblastic lineages from mouse induced pluripotent stem (iPS) cells. 12th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, San Diego, USA, 2009年5-6月 (ポスター発表)
- Katsuhisa Tashiro, Mitsuru Inamura, Kenji Kawabata, Fuminori Sakurai, Hiroyuki Mizuguchi, Adipocyte and osteoblast differentiation from mouse induced pluripotent stem cells by efficient adenoviral transduction, 7th Annual Meeting of International Society of Stem Cell Research, Barcelona, Spain, 2009年7月 (ポスター発表)
 - Mitsuru Inamura, Katsuhisa Kawabata, Fuminori Sakurai, Kazufumi Katayama, Midori Hayashida, Hiroko Matsumura, Miho Kusuda Furue, Hiroyuki Mizuguchi, Laminin promotes human embryonic stem cell differentiation into mesodendoderm, 7th Annual Meeting of International Society of Stem Cell Research, Barcelona, Spain, 2009年7月 (ポスター発表)
 - Nishida M, Sato Y, Nakaya M, Inoue K, Inoue R, Mori Y, Kurose H. Formation of P2Y2 receptor-TRPC5-eNOS signal complex defines ATP-stimulated anti-hypertrophic responses in rat neonatal cardiomyocytes. Fukuoka Purine 2009 (Joint with JSPS Core-to-Core Program A Satellite Symposium for IUPS2009) (July, Fukuoka, 2009)
 - Nishida M, Sato Y, Uemura A, Tozaki-Saitoh H, Nakaya M, Inoue K, Kurose H. P2Y6 receptor-Ga12/13 signaling triggers pressure overload-induced cardiac fibrosis. Fukuoka Purine 2009 (Joint with JSPS Core-to-Core Program A Satellite Symposium for IUPS2009) (July, Fukuoka)
 - Kurose H, Nishida M, Sato Y, Uemura A, Narita Y, Tozaki-Saitoh H, Nakaya M, Ide T, Suzuki K, Inoue K, Nagao T. Cardiac fibrosis triggered by P2Y6-Ga12/13 signaling in cardiomyocytes. The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS 2009, July, Kyoto).
 - Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Hiroaki Segawa, Birei Furuta, Eriko Uchida, Toshie Kanayasu-Toyoda, Teruhide Yamaguchi, and Mahito Nakanishi : CHARACTERIZATION OF NOVEL DEFECTIVE SENDAI VIRUS VECTORS CAPABLE OF PERSISTENT EXPRESSION OF THERAPEUTIC GENES. 第14回日本遺伝子治療学会総会 (2008.6.13 札幌)
 - Takuo Suzuki, Akiko Ishii-Watabe, Tetsu Kobayashi, Toshie Kanayasu-Toyoda, Minoru Tada, Toru Kawanishi and Teruhide Yamaguchi : Affinity of therapeutic monoclonal antibodies and fusion proteins to neonatal fc receptor (FcRn) 日本薬物動態学会 第23回年会 2008年10月 熊本
 - T. Suzuki, M. Kogi, M. Honma, S. Tanabe, T. Yamaguchi SNP and CGH array analysis on amplification profile of the c-myc gene. 第67回日本癌学会学術総会(2008年10月)
 - Takahashi, K., Yokura, M., Okada, A., Tanaka, T., Ichisaka, T., and Yamanaka, S. : Induction of Pluripotent Stem Cells from Japanese Skin. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会 (BMB2008) (2008.12.9 神戸)
 - Yanagino S, Satoh M, Suzuki K, Sato Y. Thyroid hormone targets genes associated with arterial elasticity. 第82回日本薬理学会年会 (平成21年3月16-18日, 横浜)
 - スレッシュ ティルパッティ, ラメッシュ ドス, 押澤 正, 鈴木和博, 鈴木孝昌 プロテオミクス手法を用いた遺伝子傷害性の新しいバイオマーカー探索 日本環境変異原学会第37回大会

- (2008年12月)
- 伊藤さつき、川崎ナナ、橋井則貴、篠原 聡、山口照英：ヒト間葉系幹細胞のThy-1の糖鎖構造解析、第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会 合同大会 (2008.12.9-12) 神戸
 - 押澤正、豊田淑江、内田恵理子、鈴木孝昌、鈴木和博、山口照英：カルシウム結合タンパク質S100A8はHL-60細胞の好中球様分化において増殖・分化に重要な働きをする、第31回日本分子生物学会年会第81回日本生化学大会合同大会 (BMB2008)、(2008年12月9-12日、神戸)
 - 菊池 裕、中島 治、山崎 壮、手島玲子、棚元憲一、石黒直隆、山口照英：ウシ角膜細胞株 BCE C/D-1b が発現するスプライス変異型 GPI アンカー欠損プリオンタンパク質 mRNA の解析、2008年プリオン研究会、(2008.8.29-30、北海道 上川郡 新得町)
 - 菊池 裕、遊佐精一、中島 治、手島玲子、山口照英：GPI アンカー欠損型プリオンタンパク質産生に關与する低酸素誘導因子の発現解析、第31回日本分子生物学会年会第81回日本生化学大会合同大会、(2008, 12, 9-12) 神戸
 - 橋井則貴、川崎ナナ、篠原 聡、秦 艶、黄 笑宇、伊藤さつき、山口照英：糖鎖プロファイルを指標とした細胞治療薬の特性解析、第8回日本再生医療学会総会 (2009.3.5・東京)
 - 橋井則貴、川崎ナナ、篠原 聡、秦 艶、黄 笑宇、伊藤さつき、山口照英：糖鎖を指標とした細胞治療薬の特性解析、日本薬学会第129年会 (2009.3.京都)
 - 橋井則貴、川崎ナナ、中島 紫、伊藤さつき、山口照英：d5-フェニルヒドラジンを用いた同位体標識法及び液体クロマトグラフィー/質量分析による糖鎖の定量解析、第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会 合同大会 (2008, 12, 9-12) 神戸
 - 原園 景、川崎ナナ、橋井則貴、山口照英：低分子量ヘパリンの酸加水分解及びHPAEC-PADを用いた確認試験及び純度試験法の検討、日本薬学会第129年会 (2009.3.京都)
 - 原島 瑞、新見伸吾、原田佳呼、日向昌司、関泰一郎、有賀豊彦、山口照英：ラット肝再生モデルにおいてHGFは肝細胞におけるAnnexinA3の発現を促進させる、第15回肝細胞研究会、(2008.6.27・静岡)
 - 原島 瑞、新見伸吾、長岡陽子、斉藤千恵子、布留川みな子、関泰一郎、有賀豊彦、山口照英：初代培養ラット肝細胞におけるグルコシルコリド依存的チロシンアミノトランスフェラーゼおよびトリプトファンオキシゲナーゼ mRNA レベルの増加のプロテアソーム阻害剤による阻害、第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学大会合同大会 BMB2008、(2008年12月12日・神戸)
 - 古田美玲、内田恵理子、押澤 正、山口照英：造血支持能を持つフィーダー細胞膜タンパク質のプロテオーム解析、第8回日本再生医療学会総会 (2009.3.5・東京)
 - 降旗千恵、渡辺貴志、夏目匡克、中嶋圓、濱田修一、多田隈英未、櫻井幹也、花原泉、小枝暁子、佐久間智宏、大信田系裕、前田晃央、成見香瑞範、真田尚和、平山満朝、大山ワカ子、岡田恵美子、本田大士、須藤鎮世、鈴木孝昌 トキシコゲノミクスに関する JEMS/MMS 共同研究 (2008年)：遺伝子傷害性および非遺伝子傷害性肝がん原物質についての精選した27遺伝子に関する qPCR 法による遺伝子発現解析 日本環境変異原学会第37回大会 (2008年12月)
 - 佐藤 陽治 細胞組織加工医薬品の品質・安全性確保に関する最近の動向 日本トキシコロジー学会「応用トキシコロジーリカレント講座」(平成20年9月11日、京都)
 - 山口 照英、内田 恵理子：核酸医薬品の開発動向とその品質・安全性確保、第35回日本トキシコロジー学会学術年会、東京 (2008年6月)
 - 山口照英：Quality, Safety and Efficacy of Follow-on Biologics、第3回 PMDA

- 国際バイオリジクスシンポジウム
(PMDA 3rd International Symposium) (2009.2.12・東京)
- 山口照英：バイオ医薬品の品質保証。東京大学セミナー (2008.5.19・東京)
 - 山口照英：バイオ後続品に対する日本のアプローチ。政策研究大学院大学バイオ医薬品の知的財産と評価に関するシンポジウム「セッション4：バイオ医薬品の安全性・有効性確保に関する規制」 (2009.2.19・東京)
 - 山口照英：バイオ後続品の品質、安全性及び有効性の確保方策について。日本公定書協会第27回新薬審査部門定期説明 (2008.10.16・大阪、10.21・東京)
 - 山口照英：バイオ後続品の品質・安全性・有効性確保のための要件。バイオリジクスフォーラム第5回学術集会 (2009.2.3・東京)
 - 山口照英：医薬品及び治験薬の品質保証と開発時のCMC研究・第5回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム (2008.12.12・東京)
 - 山口照英：核酸医薬品の開発動向とその品質・安全性確保。第35回トキシコロジー学会学術年会 (2008.6.26・東京)
 - 山口照英：臨床初期におけるバイオ医薬品の品質・安全性確保～バイオ医薬品の開発初期での品質・安全性確保。第2回APDDミニシンポジウム (2008.8.9・東京)
 - 山田佳太、渡部沙木絵、大西康太、山本晃祐、木下充弘、森嶋祥之、早川堯夫、掛樋一晃 ヒト血清糖タンパク質糖鎖の網羅解析：糖鎖バイオマーカーの可能性 BMB2008 横浜
 - 山田佳太、渡部沙木絵、大西康太、山本晃祐、木下充弘、森嶋祥之、早川堯夫、掛樋一晃 ヒト血清糖タンパク質糖鎖の網羅解析：糖鎖バイオマーカーの可能性 第28回日本糖質学会 つくば
 - 山田佳太、木下充弘、米澤 傑、早川堯夫、掛樋 一晃 キャピラリー電気泳動を用いる O-結合型糖鎖の高速プロファイリング 第28回日本糖質学会 つくば
 - 小林 哲、鈴木琢雄、石井明子、川崎ナナ、山口照英：プロタミンのMALDI-TOF MSにおけるマトリックスの影響。第56回質量分析総合討論会 (2008.5.15・つくば)
 - 新井祐子、多田隈英未、渡辺貴志、浜田修一、鈴木孝昌、中嶋圓、降旗千恵 ジエチルニトロソアミン投与マウス肝臓における、遺伝子発現の経時変化および用量依存性変化の解析 BMB2008 (2008年12月)
 - 秦 艶、橋井則貴、川崎ナナ、山口照英：強陰イオン交換 HPLC を用いたヘパリンナトリウム確認試験及び限度試験に関する研究。日本薬学会第129年会 (2009.3.京都)
 - 西村 健、大高真奈美、瀬川宏知、内田恵理子、埴(古田)美玲、豊田淑江、山口照英、中西真人：細胞質持続発現型RNAベクターの性質検討と医療応用に向けた研究。第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会・合同大会 (2008.12.9-12 神戸)
 - 浅野哲秀、西川貴史、笠松俊夫、青儀巧、岡宏明、小島肇、伊東悟、鈴木孝昌、原巧、D. Gibson、林 真 皮膚細胞を用いる小核試験—開発と検証—日本環境変異原学会第37回大会 (2008年12月)
 - 多田隈英未、櫻井幹也、渡辺貴志、鈴木孝昌、成見香瑞範、浜田修一、平山満朝、真田尚和、小枝暁子、中嶋圓、大信田系裕、佐久間智宏、降旗千恵 遺伝子傷害性肝発がん物質および非遺伝子傷害性肝発がん物質投与マウス肝臓における遺伝子発現の比較解析 BMB2008 (2008年12月)
 - 大高真奈美、西村健、瀬川宏知、内田恵理子、埴(古田)美玲、豊田淑江、山口照英、中西真人：持続発現型センダイウイルスベクターの性質検討とその応用。第56回日本ウイルス学会学術集会 (2008.10.26-28 岡山)
 - 田代克久、井野麻美、川端健二、桜井晴奈、櫻井文教、水口裕之：改良型アデノウイルスベクターを用いた骨芽細胞への高効率分化誘導法の開発。第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会、神戸 (2008年

- 12月)
- 田邊思帆里、佐藤陽治、鈴木孝昌、鈴木和博、山口照英：ヒト間葉系幹細胞における培養分化マーカー同定に関する遺伝子発現プロファイリング。BMB2008 (第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会 (2008.12.10))
 - 田邊思帆里、佐藤陽治、鈴木孝昌、欒洋、鈴木和博、山口照英：ヒト骨髄由来間葉系幹細胞に関するゲノムプロファイリング。日本ケミカルバイオロジー研究会第3回年会 (2008.5.19)
 - 内田 恵理子：医薬品のウイルス安全性確保：NATによるC型肝炎ウイルス検出の評価とNATによる高感度検出のためのウイルス濃縮法の開発。日本薬学会第129年会シンポジウム，京都 (2009年3月)
 - 日向昌司、日向須美子、原島 瑞、山口照英、新見伸吾：アネキシンA3のノックダウンはHuH7細胞の腫瘍形成を抑制する。日本薬学会第129年会 (2009.3.京都)
 - 豊田淑江、石井明子、鈴木 浩子、李勤、田村悦臣、森田育男、山口照英：血管内皮前駆細胞であるEarly EPCとOutgrowth Endothelial Cellの特性解析 第81回日本生化学会大会 (2008年12月 神戸)
 - 木下充弘、梶 直孝、劉 人慈、山田佳太、早川堯夫、掛樋一晃 Ion-pair Chromatography/ESI-IT-TOF MSを用いるグリコサミノグリカン類の構造解析 第28回日本糖質学会 つくば
 - 柳野 紗智子、佐藤 光利、鈴木 和博、佐藤 陽治血管平滑筋における弾性関連遺伝子の甲状腺ホルモンによる制御 日本薬学会第129年会 (平成21年3月26-28日，京都)
 - 鈴木孝昌、降旗千恵 Collaborative study on the toxicogenomics in JEMS/MMS 日本環境変異原学会第37回大会 (2008年12月)
 - 鈴木孝昌、小泉朋子、本間正充、中嶋圓、濱田修一、渡辺貴志、降旗千恵 トキシコゲノミクスに関するJEMS/MMS共同研究II：遺伝子障害性発癌物質の迅速スクリーニング系としてのTaqMan Low Density Arrayの評価 日本環境変異原学会第37回大会 (2008年12月)
 - 鈴木孝昌、小木美恵子、小原有弘、本間正充、田邊思帆里、山口照英：SNPおよびCGHアレイを用いたc-myc遺伝子増幅に関する詳細解析。第67回日本癌学会学術総会 (2008.10.28)
 - 鈴木孝昌、田邊思帆里、小木美恵子、押澤 正、佐藤陽治、山口照英、鈴木和博：ヒト間葉系幹細胞の染色体安定性の解析。第8回日本再生医療学会総会 (2009.3.5・東京)
 - 鈴木浩子、石井明子、豊田淑江、田村悦臣、山口照英：ヒト臍帯血単核球由来Outgrowth Endothelial Cellの特性指標の探索と機能解析 第8回日本再生医療学会総会 2009年3月 東京
 - 鈴木琢雄、石井明子、多田 稔、小林哲、豊田淑江、川西 徹、山口照英：抗体医薬品およびFcドメイン融合タンパク質医薬品のFc受容体FcRnとの結合親和性比較。日本薬学会第129年会 (2009.3.京都)
 - 櫻井幹也、多田隈英未、花原泉、渡辺貴志、鈴木孝昌、降旗千恵 マウス肝臓における遺伝子傷害性肝発がん物質Chrysene投与後短時間での遺伝子発現解析 BMB2008 (2008年12月)
 - Katsuhisa Tashiro, Kenji Kawabata, Asami Ino, Haruna Sakurai, Fuminori Sakurai, Hiroyuki Mizuguchi: Efficient Differentiation into Osteoblastic Lineage from Both Mouse Embryoid Bodies and Bone Marrow Stromal Cells by Adenovirus Vectors, 11th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, Boston, USA, 2008年5-6月
 - Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Hiroaki Segawa, Birei Furuta, Eriko Uchida, Toshie Kanayasu-Toyoda, Teruhide Yamaguchi, and Mahito Nakanishi : CHARACTERIZATION OF NOVEL DEFECTIVE SENDAI VIRUS VECTORS CAPABLE OF PERSISTENT EXPRESSION OF THERAPEUTIC GENES. American

Society of Gene Therapy 11th Annual Meeting (2008.5.31 Boston,USA)

- Nishimura K, Ohtaka M, Segawa H, Furuta B, Uchida E, Kanayasu-Toyoda T, Yamaguchi T, Nakanishi M: Characterization of Novel Defective Sendai Virus Vectors Capable of Persistent Expression of Therapeutic Genes. ASGT 11th annual meeting, Boston (2008年5月)
- Suzuki, T., T. Suresh, T. Oshizawa, K. Ramesh, K. Suzuki Proteomics approach to find new biomarkers for genotoxicity in mouse urine. 欧州環境変異原学会 2008 (2008年9月)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

1) 「幹細胞から肝細胞への分化誘導方法」

出願番号：特願 2009-247342

出願日：2009/10/28

出願人：財団法人ヒューマンサイエンス振興財団

発明者：水口裕之、川端健二、稲村充、古江美保

2) 「核初期化方法」(PCT/JP2008/070365)

「Nuclear reprogramming factor and induced pluripotent stem cells」(米国出願 No.12/213,035)

3) 「Method for nuclear reprogramming」

(米国仮出願 No.61/193,363)

2. 実用新案登録

該当事項なし

3. その他

該当事項なし

Table 1 PLL 磁気ビーズによる HBV DNA の濃縮

Sample no.	原液 (copies/ml)	10 倍濃縮液 (copies/ml)	濃縮効率*
1	1.6E+06	7.8E+06	0.49
2	4.2E+05	2.1E+06	0.50
3	9.0E+04	5.7E+05	0.63
4	2.2E+04	1.6E+05	0.73
5	4.6E+03	3.5E+04	0.76

*濃縮効率= 10 倍濃縮液 (copies/ml)/ (原液(copies/ml) x 10)

Table 2 PLL 磁気ビーズによる HBV DNA 濃縮に及ぼす抗 HBs 抗体の影響

原液	10 倍濃縮液		
HBV DNA (copies/ml)	HBsAb (mIU)	HBV DNA (copies/ml)	濃縮効率
120	0	860	0.72
	1024	1400	1.17
	1792	1300	1.08

Table 3 PLL 磁気ビーズによる HBsAg の濃縮に及ぼす HCV 及びパルボウイルス B19 の影響

ウイルス希釈用血漿	AxSYM (s/n ^b)	
	種々の血漿を用いた HBsAg の希釈液	HBsAg 希釈液の 10 倍濃縮
正常血漿	1.39	3.80
HCV 陽性血漿	1.18	3.47
Parvovirus B19 陽性血漿	1.31	3.77

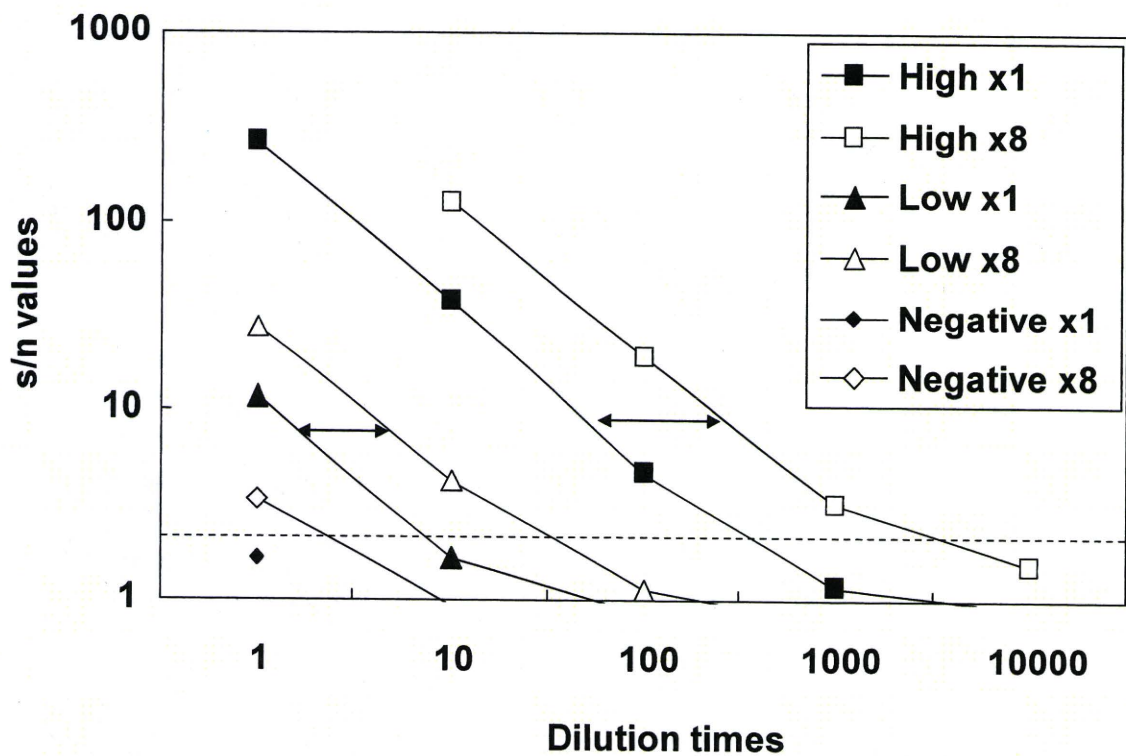


Fig.1 HBVsAg の PLL 磁気ビーズによる濃縮

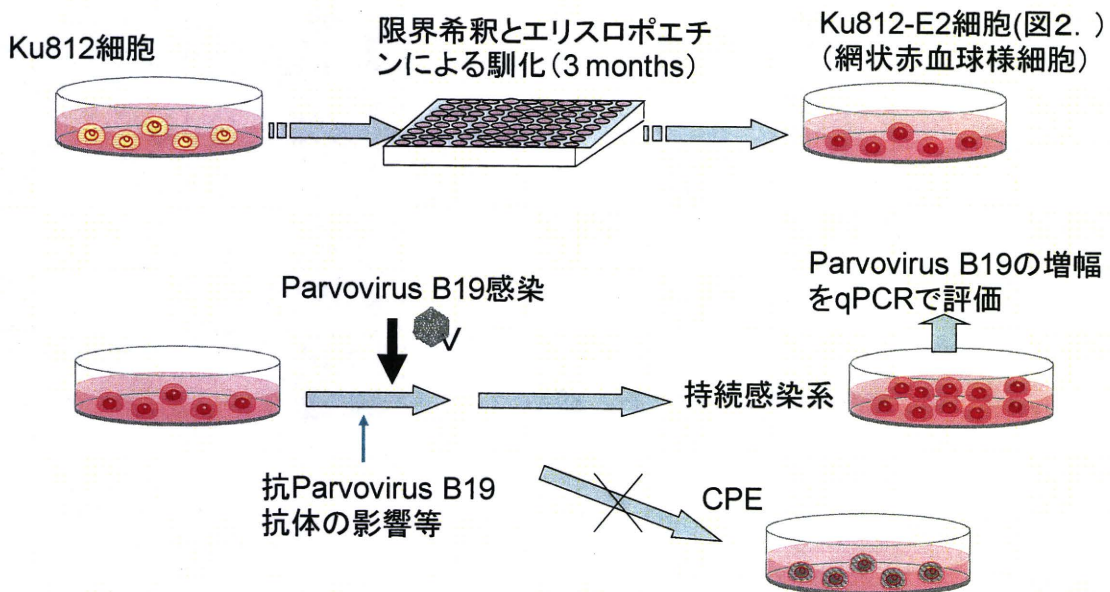
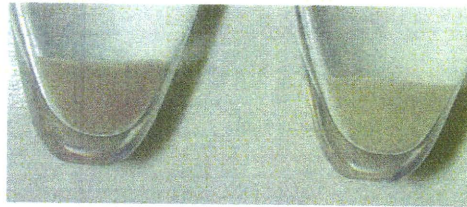


Fig.2 Parvovirus B19 インビトロ感染系の確立



Ku812-E2 細胞 Ku812 細胞

Ku812細胞とKu812-E2細胞、それぞれ 10^7 細胞を遠心して沈殿させた。Ku812-E2細胞は網状赤血球様にヘモグロビンを産生している。

Fig.3 Ku812 と Ku812-E2 細胞の比較

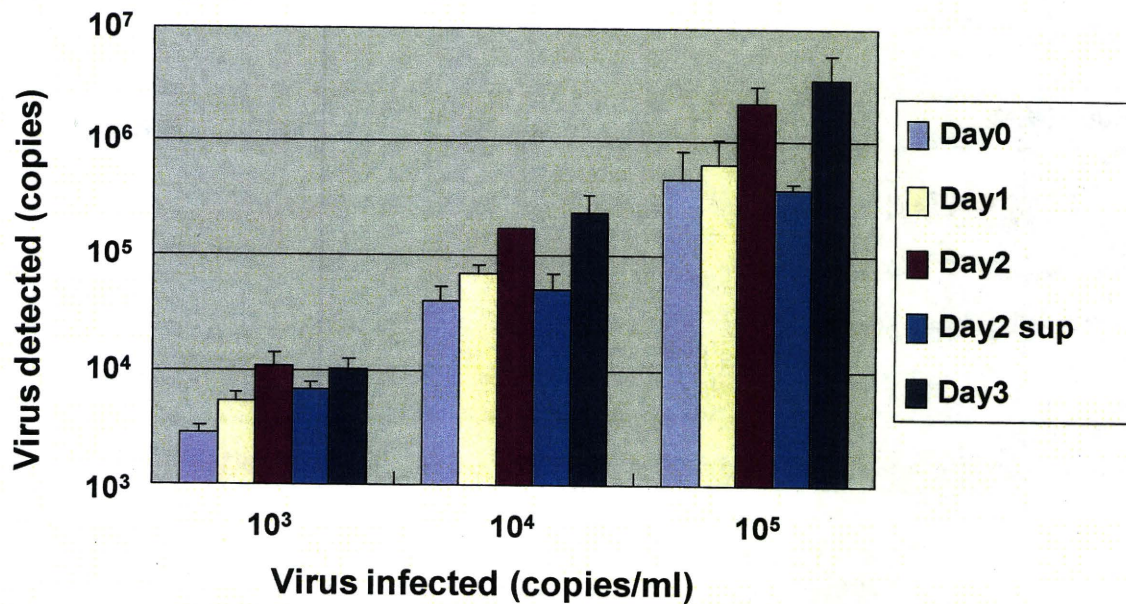


Fig.4 Ku812-E2 細胞への ParvovirusB19 の感染増幅

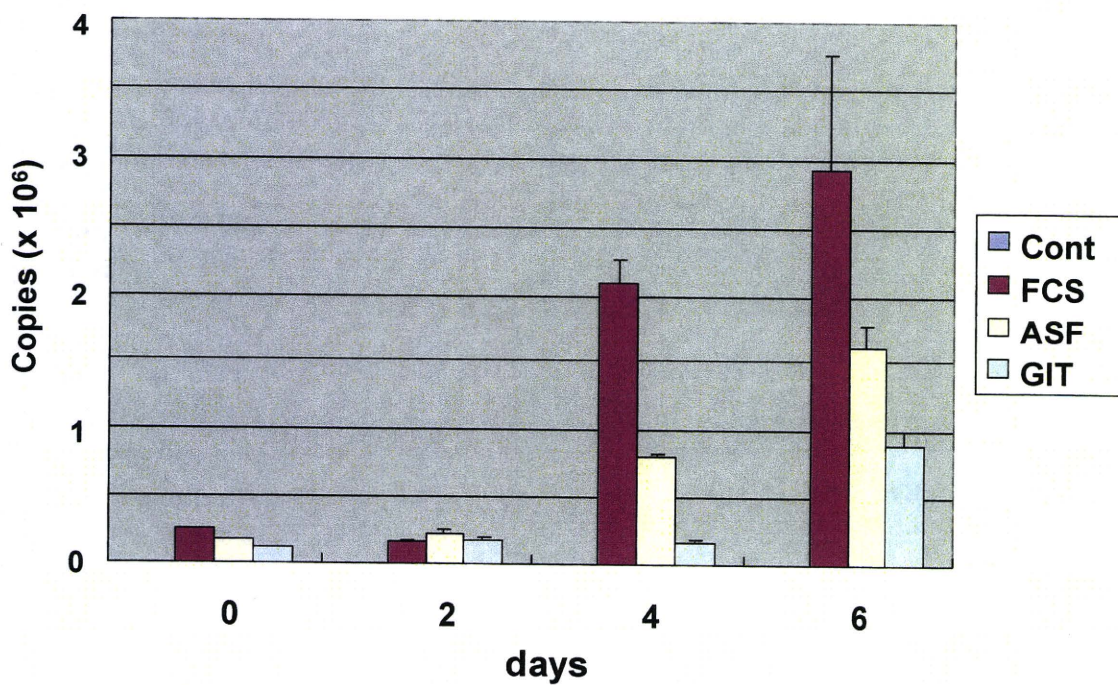


Fig.5 Ku812-E2 細胞での ParvovirusB19 の増幅に及ぼす培地の影響

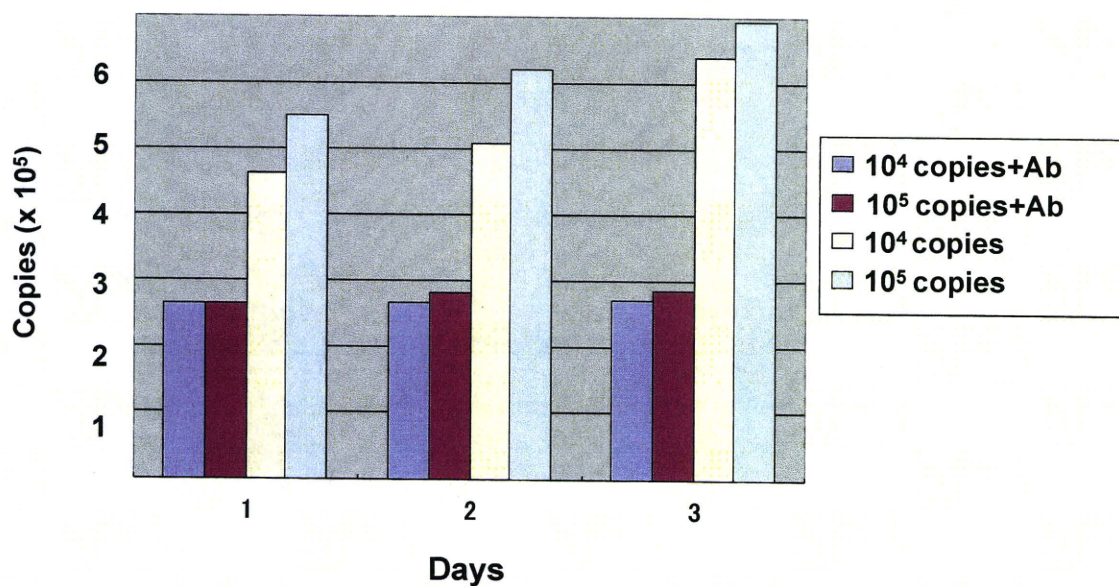


Fig.6 Ku812-E2 細胞での ParvovirusB19 の増幅と抗体の影響

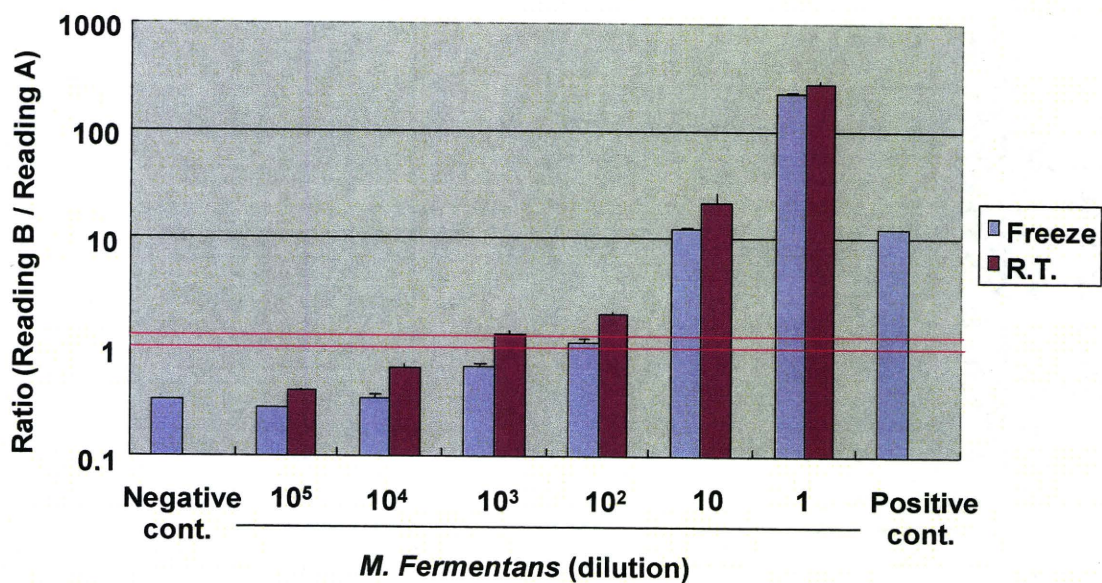


Fig.7 Mycoplasma detection by MycoAlert

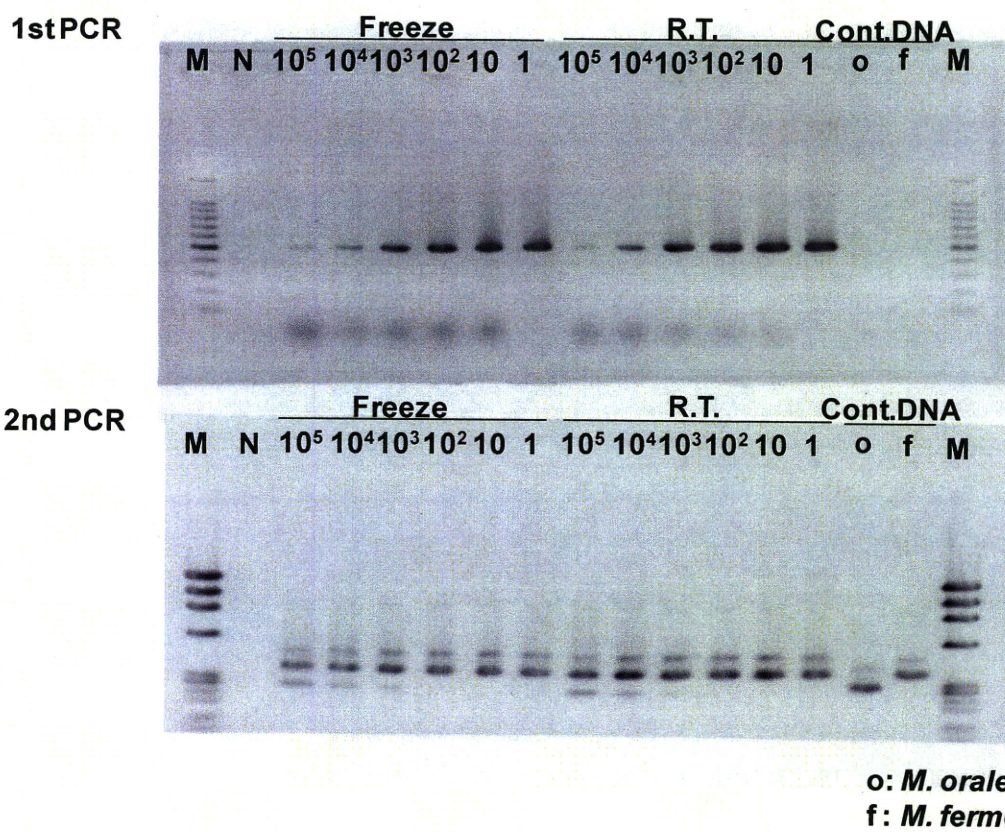


Fig.8 Mycoplasma detection by Nested PCR

Table 4 Mycoplasma detection results by real-time PCR

<i>M.fermentans</i> Dilution	R.T.			Freeze		
	Ct	Tm	Detection	Ct	Tm	Detection
1	14.45	79.1	+	11.4	79.1	+
10	18.25	79.1	+	15.57	79.1	+
10 ²	19.49	79.1	+	18.63	79.1	+
10 ³	22.27	79.1	+	22.1	79.1	+
10 ⁴	24.77	79.1	+	26.37	79.1	+
10 ⁵	28.8	79.1	+	27.95	79.1	+
Positive cont.	29.44	79.7	+			
Negative cont	37	73.5	-			

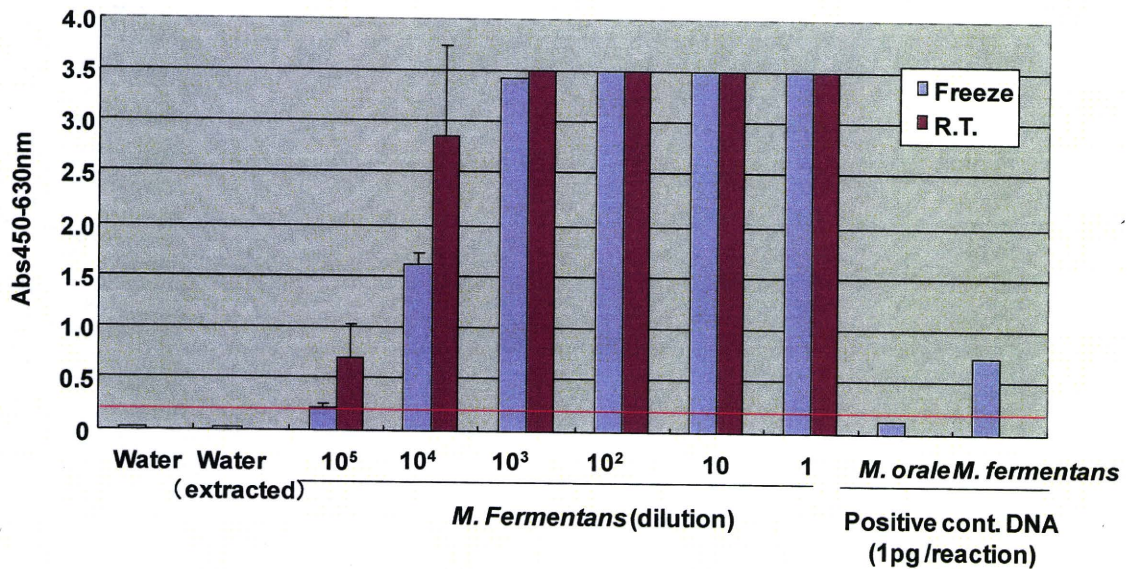


Fig. 9 Mycoplasma detection by PCR ELISA method

Table 5 Comparison of Mycoplasma detection methods

		<i>M. fermentans</i> dilution					
		1 (4.5 x 10 ⁶ CFU/ml)	10 (4.5 x 10 ⁵ CFU/ml)	100 (4.5 x 10 ⁴ CFU/ml)	1000 (4.5 x 10 ³ CFU/ml)	10000 (450 CFU/ml)	100000 (45 CFU/ml)
MycoAlert	Freeze	+	+	+/-	-	-	-
	R.T.	+	+	+	+	-	-
PCR (1st PCR)	Freeze	+	+	+	+	+	+
	R.T.	+	+	+	+	+	+
Nested PCR (2nd PCR)	Freeze	+	+	+	+	+	+
	R.T.	+	+	+	+	+	+
Real-time PCR	Freeze	+	+	+	+	+	+
	R.T.	+	+	+	+	+	+
PCR-ELISA	Freeze	+	+	+	+	+	+/-
	R.T.	+	+	+	+	+	+

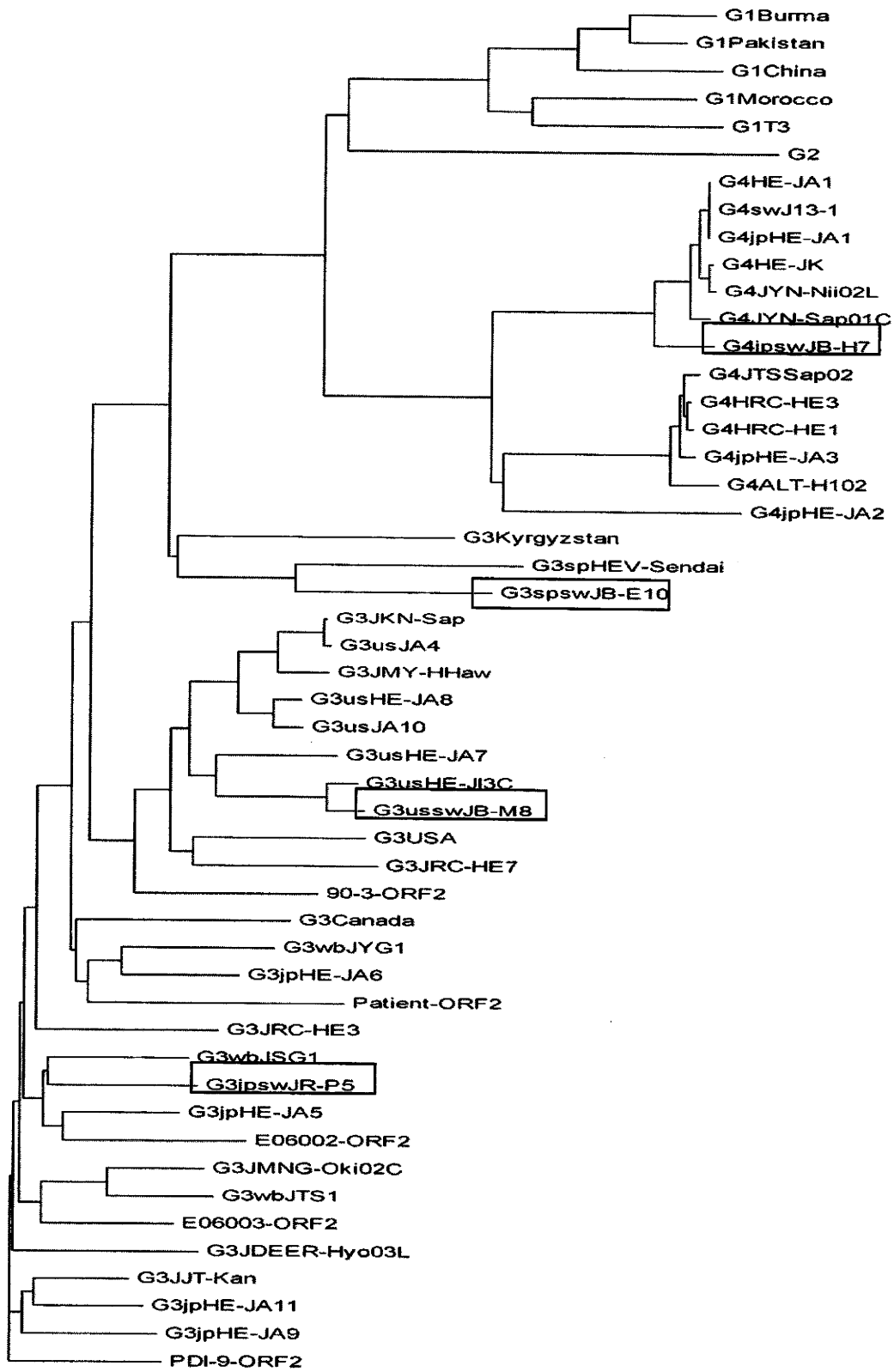
Table 6 Comparison of detection of Mycoplasma DNA by PCR methods

Mycoplasma DNA/ PCR reaction	Real-time PCR		PCR-ELISA	
	<i>M. hyorhinis</i>	<i>M. orale</i>	<i>M. hyorhinis</i>	<i>M. orale</i>
100pg	3/3	3/3	n.d.	5/5
10 pg	3/3	3/3	5/5	5/5
1 pg	3/3	3/3	5/5	0/5
100 fg	3/3	3/3	1/5	0/5
10 fg	1/3	1/3	0/5	0/5
1 fg	0/3	0/3	n.d.	n.d.
0.1fg	0/3	0/3	n.d.	n.d.

n.d.: not determined

Table 7 HEV 標準パネル

	パネル名	クラスター	由来	容量	コピー数 (log copies/ml)
1	HEV swJR-P5	G3jp	実験感染ブタ糞便	0.5ml/tube	5.07 ± 0.35
2	HEV swJB-E10	G3sp	実験感染ブタ糞便	0.5ml/tube	4.80 ± 0.33
3	HEV swJB-E10cul	G3sp	A549細胞培養上清	0.5ml/tube	4.43 ± 0.31
4	HEV swJB-M8	G3us	実験感染ブタ糞便	0.5ml/tube	4.91 ± 0.42
5	HEV swJB-H7	G4jp	実験感染ブタ糞便	0.5ml/tube	5.27 ± 0.39
6	Negative control	—	希釈用ヒト血清	0.5ml/tube	—



0.01

Fig.10 HEV パネルの系統樹

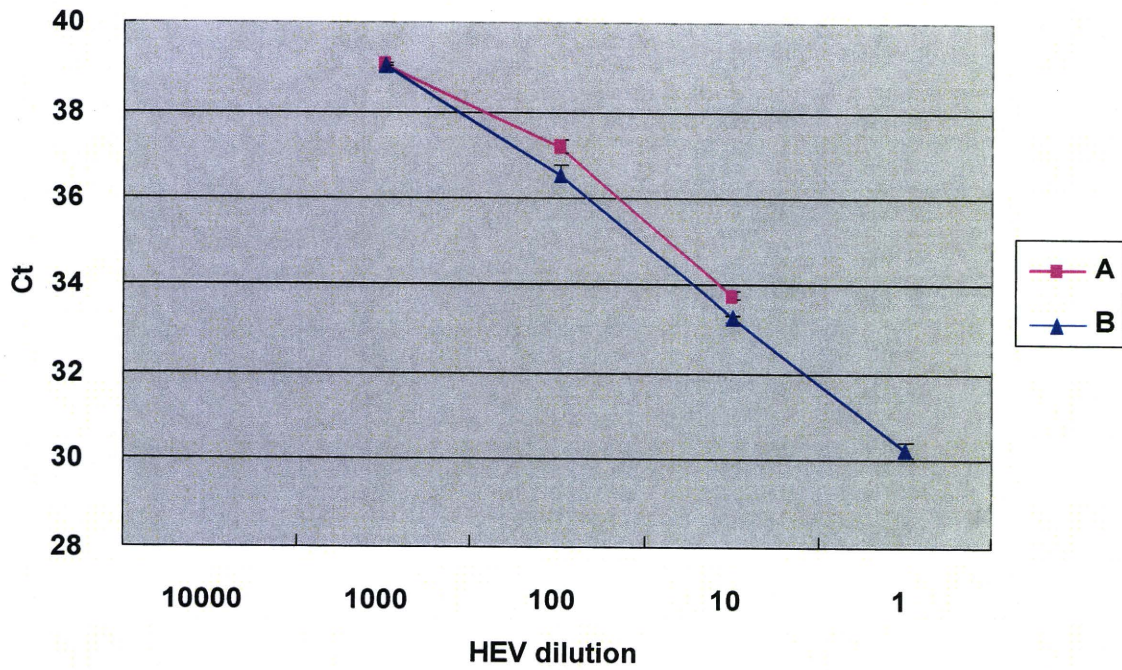


Fig.11 HEV パネル候補品 (swJB-H7) の均一性試験

A : HEV 原液より RNA を抽出後に 10 倍希釈列を調製し、qRT-PCR を実施

B : HEV の 10 倍希釈列から HEV RNA を抽出し、qRT-PCR を実施

Table. 8 HEV 標準パネルの希釈列の定量